

サポートツール全国キャラバン2011「教材教具研修会」in 広島

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2011年9月4日

広島市東区地域福祉センター 3F 大会議室
(広島市東区社会福祉協議会)

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：広島発達障害親の会「明日葉」

【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、具体的な教材・教具の活用方法についての研修会を開催してきた。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めた。

今まで、2009年11月1日新潟市、2010年2月21日佐賀市、同年5月30日秋田市、同年11月21日岐阜県大垣市、2011年2月6日徳島市、同年6月5日札幌市にて教材教具研修会を開催し、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めている。

今回の広島市での開催は、広島発達障害親の会「明日葉」が中心になって準備を進めた。学校現場で指導にあたる多くの小学校教員と広島の作業療法士など多方面における専門家と連携し、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくためにも、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する研修会を企画した。



【研修会開催要項】

日 時：2011年9月4日（日）10：00～16：30（9：30開場）

会 場：広島市東区東蟹屋町9-34

広島市東区地域福祉センター（広島市東区社会福祉協議会）3F 大会議室



プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

（特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員）

- 2、講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」
～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

講師 辻 薫 氏

（大阪府作業療法士会発達部門代表・日本作業療法士協会認定作業療法士・
大阪発達総合療育センターリハビリテーション部・
大阪市教育委員会特別支援教育専門家チーム）

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催：広島発達障害親の会「明日葉」

後 援：広島県教育委員会、広島市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、
社団法人日本作業療法士協会、社団法人広島県作業療法士会、
日本感覚統合学会、社会福祉法人つつじ、

事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net

URL：http://www.jpald.net/

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。二次障害というものがあるということを強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、少し紹介しながら進めた。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次に支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。「子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した。」「今後実践したい。」と言うような積極的な感想を多数いただいた。



「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

大阪府作業療法士会 事業部発達部門代表 辻 薫

発達障がいがある子どもたちの中には、ボール投げや縄とびなど、粗大な運動の苦手な子がいる。また、手先をうまく使えず、鉛筆を握り込んで紙が破れるほど筆圧が強い子や、逆に指先に力が入らず、ふにゃふにゃした文字しか書けない子もいる。これらの子どもたちは、やる気がないわけでも不真面目なわけでもない。自分なりにうまくやりたいとチャレンジしているものの、頭で思い描くイメージのように手足や体をうまく動かすことができないでいる。自分でもやる必要があることはわかっていて、うまくいかないことに気づいているため、自信や意欲が低下し、みんなと一緒にすることも嫌になってしまいやすい。

このように、「自分は大めな子」、「どうせやってもできない」など、自分自身への信頼感を失うことのないよう、早期からいろいろな学び方の工夫が必要である。

「学び方が違って、やればできる」「こつこつやればうまくなる」といった、それぞれの子が、それぞれの目標に向かって、一步一步努力すること、励ましあうこと、支え合い認め合うことを大切にしている学級であってほしい。

そのためにも、学級での子どもの具体的な困難について教師がよく観察し、その困難の背景を考え、保護者、担任、支援学級の担当、コーディネーターなどが連携しながら、その子どもにあった手立てにつながる教材教具や指導方法、環境への配慮を検討し、日々の学校での実践に活かすことが、とても大切である。

今回の研修会では、教師からよくある相談例として以下の事例について取り上げ、作業療法士の立場から解説し、教材教具の工夫と援助方法について提案した。

- 1、授業中、じっと座ってられない、椅子にもたれかかり姿勢保持が困難、集中が続かない事例の困難の背景とその手立て
- 2、鉛筆の持ち方がうまくできず、文字の形が整わない事例の困難の背景とその手立て
- 3、雑巾がうまく絞れない、両手で床の雑巾がけが難しい事例の困難の背景とその手立て
- 4、そのほか、はさみや縄跳びなど学校で使用する教具で扱いやすいものを紹介した。

そして最後にまとめとして、

- 1、効果的な学習活動を支援するためツールの導入は通常の学級でも可能であり、有効であること
- 2、教育と医療の連携で、子どもへの支援の質が向上すること。とくに作業をできるようにするための作業療法の視点は、学習活動を促進することができること
- 3、子どもの様子を学校生活の場で教師と作業療法士が継続的に相談連携し、ニーズに対処していくことが効果的であること

を提案した。

当日は、広島県作業療法士会から8名の参加があり、作業療法士の学校支援モデルとして、参考にしていただいた。今後の広島での連携活動の積極的な発展を期待したい。



ワークショップ 報告

14時過ぎからワークショップが始まりました。

会員の子どものさんの事例を供覧し、参加者同士の話し合いと講師の先生の解説を通して、その子の支援を考えていこう、という内容でした。

まず、机を並べ変えて、8つのグループに分かれてもらいました。1グループは8名～9名となりました。山田先生からのリクエストで、各グループに1人～2人の作業療法の先生に入っただき、また学校の先生や保護者も偏らないよう入っただきました。

事例提示は、まずビデオで、ご家庭での書字の様子、食事の様子、自転車練習の様子等が上映され、次に学校で行なわれた国語と算数のテストプリントが配られました。

それらを元に、各グループで、その子のもつ困難さについて25分間話し合い、その後グループごとに発表しました。話し合いの時間が十分もたれたおかげで、どのグループも、色々な場面について、深く話し合いができたようでした。保護者にとっては、作業療法の先生や学校の先生とひとつのテーブルを囲んで話し合うという貴重な体験もできました。作業療法の先生の専門的なお話に、日ごろの疑問も含めてなるほど…と納得できましたし、学校の先生の洞察力のある発言に、日ごろの子ども達との密接な関りを感じることもできました。広島県にも、子ども達をこんなに見て下さる方々が、こんなに沢山いると思うと、心強くうれしくなりました。

その後、辻先生から、生活の場面を中心に、身体機能の特徴（困難さ）についてのお話がありました。姿勢の崩れ、書字の乱れ、自転車が苦手など、表在するひとつひとつの問題に目が奪われると、どこから直していけばよいのか途方に暮れるようですが、「筋の緊張」、「目と手、体の左右の協働」という見方をすると、これからの支援の方法が見えてくるような気がしました。

続けて村井先生から「漢字の難しさの4つのポイント」についてのお話があり、山田先生から、この子の場合はその4つの内のどこでつまづいているか、についての解説がありました。それに加えて、この子の場合、（無理にさせないことで）支援をしているつもりが、いつの間にかその子のやる気を削いでいるかもしれないとの指摘もあり、午前中のご講演でのテーマの一つ、「あきらめさせない支援が大切」「その子にできるやり方を見つけてあげるのが本当の支援」ということを改めて強調されました。

午前、午後の講義につづけてワークショップをしたことにより、難しい内容であったのにも関わらず、学べることの多かった研修会であったと思います。

小学生だけでなく、中高生の保護者にとっても、就労・自立のために必要な基礎（読み・書き・計算・生活面）を今一度見直す良い機会となりました。

また、広島で研修会を開催して頂いたおかげで、地元の多くの先生方や支援の方々に参加して頂けたと大変感謝しております。どうもありがとうございました。
(保護者)



<アンケート集計>

参加者 83 名中、 50 枚 回収

I 属性

- (1) 保護者 14 名 : 「明日葉」の会員 2 名、 その他 9 名、 不明 3 名
- (2) 教員 15 名 : 幼稚園 0 名、 小学校 11 名、 中学校 3 名、
その他 1 名 (教育センター)
- (3) 作業療法士 10 名 : 医療 1 名 (看護師)、 療育 8 名、 不明 1 名
- (4) その他 11 名 : 保育士 7 名、 ST 1 名、 精神科医 1 名、 大学院生 1 名、
その他 1 名

II 講演 1 (10 : 20 ~)

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」 ～使い方で変わる教材の有効性～

(1) 保護者

- ・子どもが何につまづいているのかがわからないと、手だてがわからないと思いました。もっと子どもが小さい頃に手だてが出来たら良かったと残念でなりません。今からでも遅くないと思って頑張ります。
- ・LD の診断を受けている息子ですが、改めて子どもの持つ特性を的確につかまえてやれるのが大事なななだと思いました。先生は我が子のことをみていたんですか?! と思ってしまうほど、数々の事例をお聞きしながら、親でありながら、分かっているようで分かっていないことがたくさんあり、共感しました。具体的ですごく分かりやすかったです。
- ・つまづきの原因を良く分析し、根本の問題をとり除くための基本的トレーニングが大切なことがわかった。
- ・子どもがどこが苦手であるかを見極めて、その部分をサポートする支援が必要であることが分かりました。
- ・漢字を書くために必要な力、学習が楽しい、自分でもできる、という自信や意欲を持たせることが、いろんなことを伸ばす大事な力になることを改めて知り、やればできる工夫を、これからもしていきたいと思います。
- ・その子その子によって、関わり方に変化がある中、先生方のやり方ひとつで、子どももかわるのだなと思いました。
- ・山田先生の指導の仕方や教え方はとても勉強になりました。広島にも山田先生がほしいと思いました。
- ・実際指導されてきた子どもさんの例をたくさん挙げて説明していただき、分かりやすく、あっという間に時間が過ぎました。時間が足りなかったのが残念でした。
- ・ひとりひとりの子どもの事例を通して、分かりやすい内容の講演で勉強になりました。
- ・子どもとの実際の関わりについての話が聞けて、イメージしやすかったです。
- ・とても勉強になりました。さっそく子どもと一緒に取り組んでいきたいと思います。
- ・とても分かりやすく、事例をまじえて話してくださりよかったです。また聞きたいです。
- ・うちの子はまだ小学 1 年生ですが、大変参考になりました。
- ・事例を中心にとってもわかりやすかったです、途中から早くなりもったいない感じでした。

(2) 教員

- ・子ども達の実態から、子ども達の困り感を分析し、手立てをしている具体を教えていただき、とても勉強になりました。教室の後ろにサポートツールや本などが提示されていて、とても参考になりました。まだまだお話が聞きたかったです。
- ・子どもに合った教材のヒントはないかと参加させて頂きましたが、その前にまず子どもの特性を見抜いてとらえることが大切だということがよくわかりました。試してみたい教材がいっぱいでした。
- ・なぜできないのかの分析がとても的確ですばらしかったです。
- ・原因を見極め、適切な支援・指導をするために、改めて子ども達をじっくり見ていきたいです。
- ・事例や教材教具の使い方を紹介して頂きながらのお話で、とても分かりやすく聞かせていただきました。普段関わっている子ども達のことを思い浮かべていました。参考にさせていただきたいと思います。また同僚たちに紹介しようと思います。
- ・私の通級担当をしています。呉市には2級なので、相談しながらやっています。今日の話はとても参考になり、元気をもらえました。
- ・とても新鮮でとても役に立ちました。話術もすばらしく、楽しかったです。明日からまた少しずつがんばっていききたいと思います。
- ・児童生徒の実態とそれに応じた指導・支援の例を数多く紹介してくださったので大変参考になりました。
- ・色々な課題に対しての具体的な支援が数多く紹介していただき、とても分かりやすかった。
- ・具体例がたくさんで、とても分かりやすく勉強になりました。
- ・具体的に、子どもの困り感に対応する様々な支援について学べたので、よかったです。
- ・現場によくあるパターンに対し、具体的な支援の方法を示していただき大変参考になりました。
- ・大変参考になりました。
- ・とてもよかったです。時間が足りなくて飛ばされたところをもっと聞きたかったです。

(3) 作業療法士

- ・実際のお子さんのお話を交えながらのお話で、とても分かりやすかったです。子ども達のどこに困り感があるのか詳しく見極めていくことがとても大切だなと思いました。また子どもの姿を見るだけでなく、子ども自身にどうしてイヤなのか？などを聞いてみることも大切だなと感じました。
- ・それぞれのお子さんの特性（なぜこれができないか等）をひもといていく方法が具体的でとても参考になりました。
- ・先生の話の中で、子どものやる気が高まっていく様子が、手に取るようにわかりました。子どもの可能性をもっと伸ばしていきたいです。
- ・単に「計算のここにつまずいている」からそこに支援をとということだけでなく、それに対してどのように対応するかというプロセスが分かりやすくて、もっとレジュメの最後までお話を聞きたかったです。）
- ・How toのみでなく、なぜその教材を使用したのかまで分かったので勉強になった。
- ・実践されている例がたくさんあったり、お話もおもしろく、最後まで興味深く聞かせていただきました。
- ・具体的な内容でとても勉強になりました。もっとお聞きしたかったです。
- ・言葉の教室での具体的な取り組みが知れ、とてもよい内容を聞かせていただけました。
- ・分かり易く参考になりました。
- ・大変参考になりました。

(4) その他

- ・色々な教材が見れて良かったです。まず、どこで間違っているか、どこに困っているかに注目することを大切にしたいです。(保育士)
- ・何故できないのか。どうやったらできるのか。具体的に教えることの大切さを感じました。どこでつまづいているのかを知ることがまず必要ですね。(保護者・保育士)
- ・実際の子どもの様子も良く分かり、理論、データに基づいたお話で、とても分かりやすかったです。

日々また振り返りながら子ども達が自分もできると成功体験を積んでいけるようにしたいです。

(保育士)

- ・サポートの仕方や教材の活用に仕方が、とても勉強になりました。ありがとうございました。(保育士)
- ・事例を沢山取り入れたお話でとてもわかりやすく、聞いていて楽しかったです。(保育士)
- ・具体的な例がわかりやすく納得できました。(保育士・児童ディサービス)
- ・とても分かりやすく、楽しいお話でした。いろいろな支援の方法、教材の提示の仕方等々、とても勉強になりました。支援グッズも楽しく勉強する為に、療育していく中でも大変役立ちそうなので、是非手に入れたいと思いました。(保育士・児童ディサービス)
- ・とても具体的で、分かりやすかったです。理論がきちりあった上での支援で素晴らしいと思いました。(ST)
- ・大変参考になりそうなヒントをたくさんいただけたと感じています。子ども達に還元していきたいです。(精神科医)
- ・お医者様が病気の原因をさがし当てて、その対策として薬を与え経過を見ながら治していく様子が重なって見えました。いっぱいあるツールの中から必要なものを選び(もしくは作り)適切に与えていくことの大切さを痛感しました。(障害者支援者検討)
- ・子どもはどこでつまづいているのか、なぜ失敗しているのかを見極めることが必要だと感じました。「やれ」、「やりなさい」という言葉がけではなく、何がわからないのか、どうすれば良いのかという対処法などを、明確に子どもに伝えることが大切だと思いました。(大学院生)

Ⅲ 講演2 (12:50～)

「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

(1) 保護者

- ・具体的な道具を紹介くださり参考になりました。中学生にもなり、なかなか提案をすんなり受け入れにくい年頃、どのように取り入れていけばよいか、声かけなど難しいと感じます。
- ・自分の子どもも書く力が足りないので、道具をつかってやったことがあります。いろんな教材がありびっくりします。
- ・教材教具が沢山できました。1つ1つのものが、何て素晴らしいと思うばかりです。
- ・少しの工夫で、子どもの学習が楽になるアイデアやグッズなどの紹介があり、勉強になりました。
- ・道具の工夫について具体的に聞いて、試してみようと思いました。
- ・作業療法士さんと関わる機会がないため、参考になるものがあり購入したいと思いました。
- ・いろいろな視点で体の使い方や感覚の難しさを知り、我が子にもどのような困難を持っているか見つけ直すきっかけになりました。
- ・子どもの持つ特性、感覚をしっかり把握してサポートしていく大事さを再確認しました。
- ・作業療法の支援をいろいろ知ることができました。
- ・具体的でわかりやすくてよかったです。
- ・本当に良かったです。

(2) 教員

- ・作業療法の概要から具体的な支援の方法まで、色々と教えていただいたので、大変勉強になりました。学校でも活かしていきたいと思います。
- ・子どもの見た目の気になる姿勢のウラには、原因がちゃんとあることを改めて感じました。まずはそこにもどって適切な支援をすることで、子ども達が自信を持って学習・生活できるようになっていくのですね。

- ・作業をする時、こういうことが原因であるのだなということ、具体的に知ることができ、子ども達に支援していきたいと思います。
- ・感覚運動の面から理論的に「～だからこうなる」ということを教えていただきよかったです。
- ・作業療法士の方の見立てやアドバイスは、とても有効だと思います。
(特別支援学校には配属されていますが)実際にはまだまだ連携が取れていないと思いますし、どうやって連携していったら分からないのも現実です。
- ・OTの方との連携を全く知らなかったのも、これから学校で色々考え、協力していただきたいと思います。
- ・作業療法士との連携のとり方が具体的にわかりました。
- ・これまで実際に使ってみたことのあるものもありましたが、すべり止めシートや固定できるコンパスは画期的でぜひ手に入れて使ってみたいと思いました。
- ・いろいろな教材教具を具体的に教えていただけたことが良かったです。
- ・具体的な教具を見ることが出来てよかった。
- ・様々な教材・教具を紹介していただき参考になりました。
- ・クラスの子どもたちにつながるものがたくさんあり、実践してみたいと思うものがたくさんありました。
- ・教育現場では、学びにくい分野でとても新鮮でした。もっと学ぶ必要があると感じました。
- ・大変参考になりました。

(3) 作業療法士

- ・身体の使い方など、どのような視点でみていけばよいか等、とても分かりやすかったです。
- ・実体験を通しての講演で、子ども達の書字のしづらさ等を体験して知ることができて、とても良かったです。子どもの立場に立った支援を考えていきたいと思いました。
- ・学校の先生との連携は全くしていないので、考えていきたいと思います。また、保護者に返せるヒントを沢山頂きました。
- ・学校現場と作業療法士の先生が連携できればいいのと思いました。
- ・作業療法士としてより多くの視点が学べました。今後の療育に活かしていきます。
- ・具体的な作業分析の視点を知ることができ観察評価の参考になった。
- ・日々の取り組み(支援)を見直す、良い機会になり、勉強になりました。
- ・とても分かりやすかったです。いろんなアイデアがあり、実践でも色々やってみよう！と元気になりました。
- ・いろいろな工夫、アイデアなど知れてとても参考になりました。
- ・ものすごく興味深くてもっと基礎的な話や具体例をたくさん聞きたかったです。
- ・わかりやすく教えていただきました。

(4) その他

- ・子どもの見方、考え方をもう一度考え直すことができました。ありがとうございました。(保育士)
- ・作業療法からのサポートの方法がとても勉強になりました。もっと詳しく聞きたかったです。ありがとうございました。(保育士)
- ・欲しい！と思うものがたくさんありました。(保育士・児童ディサービス)
- ・実際の補助具もを見せていただき、とても参考になりました。(保育士・児童ディサービス)
- ・鉛筆の握り方の実践は実感できて頭によく入りました。(ST)
- ・様々な道具など具体的な支援方法を教えていただけてありがたかったです。(精神科医)
- ・その子に合わせた作業療法が必要であることの大切さがわかりました。一人一人の困難に応じたりハビリとサポートツールが要ることもよくわかります。学習が脳の中のことなら作業療法は体の運動機能・感覚などにあたると思いました。(障害者支援者検討)
- ・日常生活で使うものを、対象児が使いやすいように工夫されていて、本当に勉強になりました。(大学院生)

IV ワークショップ（14：10～）

（1）保護者

- ・事例をとおして問題点やその原因を分析し、支援の在り方を考えることで、子どもにどのように支援していいかの手だてを知ることが出来ました。
- ・具体的な事例を実際に見てアセスメントする過程、すごく勉強になりました。いろんな視点が必要なんだと感じました。わが子をもっとよく知り、今の状況をしっかりつかまえたいと思います。
- ・皆で話し合うことで、いろんな情報を聞くことができました。一つの事例から見ていくことで、具体的支援を考える方法を学ぶことができました。
- ・この子がどのように困っているかに気づき、それはなぜだろうと考えてみるころなど、いろんな人々の意見や考えが出て、「なるほどなあ」と、これまで気づかなかったところにも気づかされました。
- ・我が子の状態を知っていても、他の子の様子をみて課題となる点を見分けることができず、周囲の方の意見が参考になりました。
- ・いろいろな意見が聞けたり、見過ごしていたことに気づくことができ、勉強になりました。
- ・いろいろな立場の方のご意見を伺って大変参考になりました。
- ・いろんな捉え方があり、いい勉強になりました。
- ・一番わかりやすいものでした。（ピンときやすい）
- ・楽しかったです。

（2）教員

- ・子ども達の様子から分析していく力が、本当にまだまだだと、自分の力不足を感じ、みなさんの考えを聴いてとても勉強になりました。漢字の難しい子がたくさんいるので、今日は原因や支援を学べて本当によかったです。
- ・支援のスタートは「自分でもできる！」と子どもに思わせることということが心に残りました。
- ・実際のテストやビデオでの協議で、いろんな人の意見が聞けて勉強になりました。まとめに3名の先生の話があったのもよかった。
- ・ビデオとテストからの分析は色々な意見が出て、楽しかったです。専門的な見方で分析支援方法を提示していただいてよかった。
- ・様々な先生の多様な視点・見取りがとても勉強になりました。
- ・職種の違う人とワークショップすることは大切であることを再確認しました。
- ・多くの目で見ることによって様々な見方が出てきて、対策も見つかるということが分かりました。
- ・子どもの様子をみながら支援の仕方について意見交流ができて良かったです。
- ・他方面の方の考えが聞けて良かったです。
- ・色々な話・意見が聞けて楽しかったです。
- ・意見がたくさん出て勉強になった。療育現場の人との交流ができて良かった。
- ・グループ協議を取り入れることで、受け身にならず主体的に研修できたので良かったです。

（3）作業療法士

- ・参加者から様々な視点での意見が聞け、とても勉強になりました。またこういった機会があると良いなと思いました。
- ・先生、保護者、OTでの視点の共有ができていておもしろかった。特に保護者の視点は子どもの様子を細かく捉えていて専門家にはない視点は参考になった。
- ・先生（学校の）、お母様方の意見、いろいろな視点があり、勉強になりました。おもしろかったです。
- ・討議できて良かったです。学校の先生や保護者の方の話もきけて良かったです。

- ・具体的な事例を他職種の方々と意見交換ができ新たな視点を学びました。
- ・色々な立場の方がいらっしやっただので、色々な視点での評価があり、勉強になりました。
- ・色々な方々のお話を聞くことができとても良かったです。
- ・もう少しわかりやすい（明確な）事例でしたら分かり良かったと思うのですが。

（４）その他

- ・同じビデオを見ている、見ている視点は様々で、様々な人（職種）と話し合っただけで支援していくことの大切さを感じました。また自分の視点（見方）がまだまだであることを感じました。（保育士）
- ・色々な視点からの意見が聞けて良かったです。（保育士）
- ・実際のケースワークができて、自分以外の意見が聞けてとても勉強になりました。（保育士）
- ・色々な物の見方が学べてとても勉強になりました。ありがとうございました。（保育士）
- ・普段なかなか関わることでできない職種の方々の視点で話が聞かれたので、とても新鮮な経験ができました。ありがとうございました。（保育士・児童ディサービス）
- ・保護者、学校の先生、福祉関係の方など、いろいろな立場の方と交流・話ができとても有意義でした。（保育士・児童ディサービス）
- ・とても有意義でした。（ST）
- ・ケースを通して具体的に考えることはとても勉強になりました。（精神科医）
- ・大変参考になりました。わずかなビデオと算数・国語のテストからこれだけのことが見抜けるのは驚きでした。このような分析能力が大切なことがよくわかりました。本日はありがとうございました。（障害者支援者検討）
- ・色々な職種の方の意見を聴き、短時間で対象児の様子を把握されていることに驚き、私自身もっと勉強していかないと感じました。（大学院生）

V 「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・感想をお聞かせ下さい。

（１）保護者

- ・学校の中で、当たり前のこととして支援が受けられるようにすべての先生に知ってもらいたいと思いました。またこのような研修があれば参加したいです。ありがとうございました。
- ・通級学級の制度を充実して欲しいです。
- ・他県と比べ先生の理解・支援の場の差が大きいこと、又どこへ行っていいのか、どこへも行けない（支援の場）という話も多いです。
- ・このような勉強会が今後も多くあり、学校の先生方にも参加していただき現場に活かして欲しい。
- ・こういった会にもっと参加できると嬉しいです。
- ・学習だけに目を向けがちだが、作業療法も大切と分かりました。

（２）教員

- ・学校で研修を重ねても、まだまだ他人事のように受け止めている教員も少なくない。どうすれば、特別支援教育や発達障害者支援に向き合えるようになるのか…と悩んでいるところである。
- ・実際に共生共育ができるように、支援員を増やしてほしいです。
- ・通常での特別でない支援がなかなか定着しない。
- ・「個を大切に」のあまり逆に集団が壊れてしまうケースがあり、子どもたちのリレーションづくり、ルールの確立の必要性を感じる。
- ・このような会を開いていただけてありがたかったです。

(3) 作業療法士

- ・学校との連携が簡単にできればいいと思います。普通学校に OT の配置を。
- ・多くの専門家、人との連携がとれるシステムをつくってほしい。
- ・今日は広島で開催して頂き、ありがとうございました。

(4) その他

- ・もともと現場に共通認識が持てるといいと思いました。通常学級の学校の先生方ももう少し参加できたらいいのと思いました。(保育士)
- ・グレーゾーンの児童への負の連鎖にならない声かけについて。(保育士・児童サービス)
- ・学校、保護者、民間のサービス事業所等の連携がとても大切だと思います。どうもありがとうございました。(保育士・児童サービス)

○その他ご意見・ご感想

- ・我が子は就学はまだですが、様々に工夫をされた教材があることに感心しました。とても勉強になりました。(保護者)
- ・大変中身の濃い講座をありがとうございました。(保護者)



